

森のこだま

職員エッセー

みなみしん まよ
今回のこだま人は… 言語聴覚士 南新 麻世

たんぽぽクリニック言語聴覚士の南新さん。今回は、食にまつわるお話をいただきました。さてどんなお話が出てくるのでしょうか。



\\ 日曜日の晩ごはん //

海上自衛隊の人たちは、洋上で曜日の感覚を失わないために毎週金曜日は「カレーライス」を食べるそうですが、皆さんにはそういった「お決まりのごはん」はあるでしょうか？

私の家では子供の頃、日曜日の夜は時々「手巻き寿司」でした。酢飯と大判の海苔と、マグロ、イカ、イクラ、玉子焼き、納豆、たくあんなど、のせる具がズラッと用意されていて、各自で好きなものを好きなようにのせる仕組みです。家族5人で具の取り合いをしながら口いっぱいにはおぼる手巻き寿司は美味しかったです。ただ単に母が作るのが楽なので、日曜日に手巻き寿司が多かったのだと思うのですが、「色々な種類の中から好きなように作れる」というのがとても贅沢な気がしていました。休みが終わるのを残念に思う気持ちを忘れさせるのも、もしかしたら母の狙いだったのかもしれませんが。姉2人が県外へ出て家族が揃う回数も減り、手巻き寿司をする機会はぐっと減ったのですが、それでも手巻き寿司といえば「日曜日だなあ」と思うのです。

同じように、どんな人たちにもごはんの時間があって、色々なごはんにまつわる思い出を持っているんだろうなと思った作品を、ここで紹介したいと思います。

1つ目は映画の『南極料理人』です。南極基地という閉鎖空間で働く人たちと、それを支える料理人の姿が淡々と描かれている映画で、堺雅人さんが主演されています。南極地域観測隊の料理人である西村淳さんという方が書かれたエッセイが元になっています。



2つ目は漫画の『舞妓さんちのまかないさん』です。舞妓さんを目指して青森からやってきた女の子が、舞妓さんの生活を支えるまかないさんになるお話です。こちらは実話ではないですが、作者が青森出身の方で、「水曜日のコーヒー」「頑張った後のあずきぱっと」など実話が元になっているのかなと思うエピソードがたくさんあり面白いです。

患者さんの“食べたい”を叶える当院のクックラボの「Kanauプロジェクト」は、まさに生の「人のごはんの思い出」に触れられる機会だと思っています。私も言語聴覚士として叶えるお手伝いをしてゆければと思っています。

次号 4月1日発行のゆうの森新聞 110号のこだま人は…
たんぽぽクリニック 看護師 永井 和子

次の「こだま人」は、看護師の永井さんです。どんなエッセーが待っているのでしょうか。どうぞ楽しみにお待ちください。



Kazuko Nagai

